

2022年3月30日

在日ロシア連邦大使館気付 ウラジーミル・プーチン大統領殿

ロシア軍の一刻も早い停戦を求めます

日本キリスト教婦人矯風会は、武力によらない平和と核廃絶を訴え、女性と子どもが安心して生きられる社会の実現を目指して活動している団体です。

今回、ロシア軍が女性や子ども、産院にいる妊婦にも被害を与えたこと、チェルノブイリ原子力発電所を占拠し、欧州最大級のザポリージャ原発を攻撃したことに驚愕しています。

11年前に福島第一原子力発電所の核事故を経験した日本は、放射性物質が特に乳児や子どもに甚大な被曝を負わせ、人々が住める国土を失わせ、人類や地球環境に半永久的な核汚染を被らせていくことを身をもって知っています。ウクライナ侵攻下での女性や子どもへのあらゆる暴力と、原子力発電所周辺での軍事行動をただちに止めてください。

かつて、チェルノブイリ原子力発電所は、ソビエト連邦が世界に誇る原発でしたが、36年前に地球規模の核事故を起こしたことが遠因でソ連邦崩壊を招きました。今もベラルーシ共和国やウクライナの国土は残留放射能に汚染されており、ロシア全土も比較的汚染を逃れたとはいえ例外ではありません。今回、ロシア軍が原発を占拠したことによって再び核汚染を広げることがあっては決してなりません。

プーチン大統領は核兵器の先制使用についても公言しましたが、ヒロシマ、ナガサキの原爆投下を経験した唯一の被爆国である日本の市民として、核戦争や核拡散を誘発し世界を破滅に導く動きに対しても断固抗議します。

日本キリスト教婦人矯風会は、ロシア軍の一刻も早い停戦を求めます。

公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会

〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-23-5

TEL03-3361-0934 Fax03-3361-1160

